

## 自転車を活用した都市農村交流の促進 Promotion of Communication Urban and Rural Area by Bicycle

○田中 邦彦、村田 基次、松野 肇、堀 靖史  
Kunihiko TANAKA、Mototsugu MURATA、Hajime MATSUNO

### 1. はじめに

我が国の農村部では、都市部に先駆けて高齢化や人口減少が進行し、地域によっては集落機能や地域資源の維持等への影響が懸念されている。このような中、農村の活性化に向け都市農村交流等に係る様々な取組が各地で展開されているが、そのポイントの一つに、「外部の人を農村に呼び込みその地域に関心を持ってもらうこと」が挙げられる。

奈良県では、全国的にも有名な歴史資源が豊富にあるものの、広く分散していること、車両等での観光は交通渋滞の問題があること、徒歩では行動範囲が限られること等から、自転車を活用した周遊観光を推進している。県はレンタサイクル利用の社会実験や「ならクル」と呼ばれる広域自転車ネットワークの構築等を行う等の推進施策を展開しており、県内には自転車周遊観光が定着しつつある。

そこで、県では自転車で周遊する観光客を農村にも呼び込み、農業体験や農産物の購入、農家レストランでの食事、これらを通じた地域の人々との触れ合いなどを促し、農村の活性化を目指す「農村周遊自転車ルート」の整備を進めている。筆者はその構想設計を担当した。本論ではルート設定にあたっての地域特性の調査や課題整理、課題を踏まえたルート設定について述べる。

なお、対象エリアは橿原市、桜井市、明日香村である。また、図2は対象エリアの地形図に、最終的に設定したルートの他、ならクル、歴史や農業に係る主要な地域資源をプロットしたものである。

### 2. 農村周遊自転車ルートの設定

はじめにルート設定にあたっての基本条件として、観光、農業、交通等の地域特性を調査した。調査方法は現地や文献調査、レンタサイクル店や観光施設への聞き取り等である。

#### (1) 地域特性

◇豊富な歴史資源と多くの観光客：

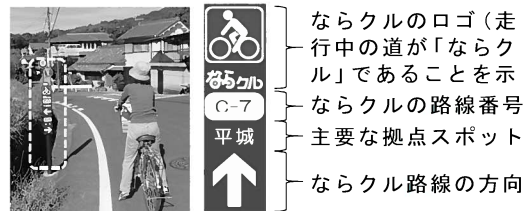


図1 「ならクル」サインの例  
Example sign (NARAKURU)

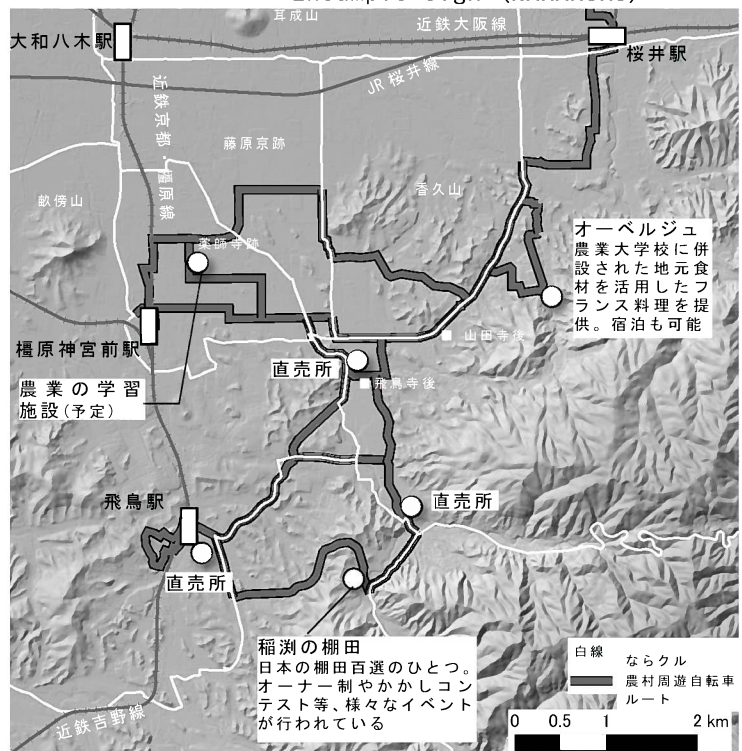


図2 農村周遊自転車ルート図と主な資源  
Rural Round Trip Bicycle Rute and Main Resources

大和平野は主に飛鳥時代に朝廷が置かれた日本の中心地であり、寺社仏閣、博物館、史跡等が豊富であり国内外から多くの観光客が訪れる。

◇魅力的な農村資源：本地区は大和平野の南部に位置し、水田や周辺山地が形成する農村風景が楽しめる。また、体験農園や農家民宿、大和野菜等の珍しい農産物の購入、県立大学に併設された地元野菜を使った高級レストラン等の豊富な農村資源が存在する。

◇連携が少なく強みが生かせていない：個々の資源は魅力があるが、単独の取組が多い。

◇交通アクセス：近畿圏や奈良市内から大和平野へは鉄道、車で容易に来訪できる。しかし、駅から歴史・農村資源までの距離が遠い。地区内にも「ならクル」が整備されており、特に明日香村では多くの旅行者がレンタサイクルで村内観光を楽しんでいる。

## (2) 課題整理とルート設定

調査結果を課題と問題点として整理し、課題解決に資するルート設定を行った。その際、関係市町村の農業・観光関係者とのワークショップを通じ地元の意向や意見も反映した。

表 1 ルート設定に当たっての主な課題とその対応 Main Task in Route Setting and Countermeasures

課題	問題点	対応(ルート設定)
農村に人を呼び込む	◇魅力ある農村資源があるが、PRが不十分	◇ならクルとルートを共有し、広域化を図るとともに、ならクル利用者を呼び込む
各種資源の横の連携	◇歴史・農村資源ともに横の連携が少なく強みが生かせていない。	◇主要駅と歴史・農に係る地域資源をつなぐルートを設定
コスト	◇自転車専用道の整備はコスト面から非現実的	◇可能な限りならクルとルートを共有(サインは、ならクルを踏襲しつつ農村らしさを創出して差別化(図4参照))
快適性	◇単なる移動経路ではなく、楽しめることが重要 ◇安全対策	◇農村の美しい風景を楽しみながら気持ちよく走れるルート ◇事故の危険性の高い場所を避けたルート

## 3. おわりに

今回は、ルート設定までであったが、今後は本ルートを活用した地域資源の連携(例えば農村体験を含む周遊ツアーの商品化等)につなげていく必要があると考える。

近年は自転車を利用した各地で観光が展開されているが、これを農村地域にまで拡張する取り組みは本件が先進的な事例であると考えられる。自転車周遊は、自分のペースでゆっくり走ることができ、その地域の隠れた魅力の発見、地域住民との交流ができるメリットがあり、都市農村交流の促進を図る有効な手段になると期待する。

謝辞：本検討に当たっては奈良県農林部農村振興課や関係市町村から多大なご指導とご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

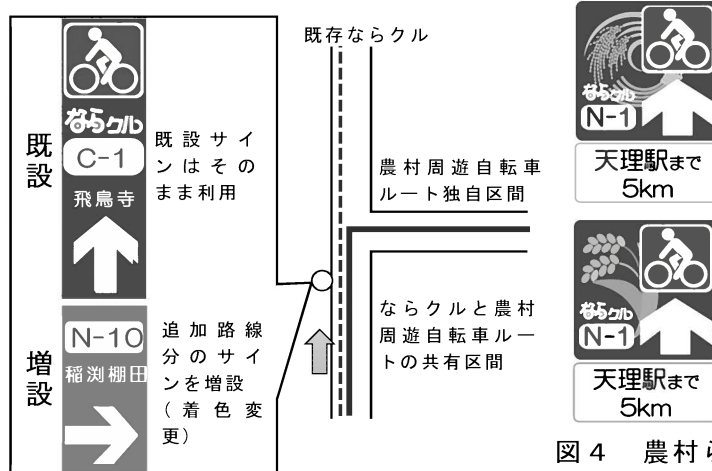


図 3 ならクルサインとの統合の提案  
Proposal for Integration Plan with NARAKURU sign

図 4 農村らしいサイン  
The Sign Like rural AREA